

他殖性野菜種苗高品質化を目指した品種判別法と純度検定法の開発

1 中核機関・研究総括者
筑波大学 大澤 良

2 研究期間
2004～2007 年度（4 年間）

3 研究目的

他殖性野菜育種においては、F1 種苗高品質化、育成者権の保護のため品種判別法、種苗の高品質化に不可欠な純度検定手法の開発の要望が強い。このため、現在進展している DNA 多型検出技術を育成現場に応用しながら、品種判別・純度検定の精度を評価する技術ならびに判別・検定を容易にする育種技術、および高品質種子生産のための採種技術の確立を目指す。

4 研究内容及び実施体制

① 総括・理論研究およびモデルの実証（筑波大学、岡山大学）

遺伝子型の分離、頻度の変動の理由のため品種識別法が確立していない他殖性作物での、理論的・実証的研究を行い、品種識別法及び純度検定法の指針を作成する。

② SSR マーカー実用化による判別手法、純度検定法の開発（(独) 野菜茶業研究所）

超多型性 DNA マーカーである SSR マーカーの変異性の安定性に関する研究、ならびにアブラナ属やメロン、ネギの実用的品種の判別や純度検定への SSR マーカー利用の実用化研究を行う。

③ 育成者権が保護できる育種技術の開発および高品質種子生産技術の開発（タキイ種苗（株）、（株）サカタのタネ、（株）トーホク、カネコ種苗（株））

他殖性に対する対照研究としてのナスでの実用化研究、ネギにおける品種判別の実用化研究、*Brassica rapa* および *Brassica oleracea* における種子純度高品質化の実用化研究を行う。

④ トレーサビリティを付与した育種技術の開発（神奈川県農業総合研究所、茨城県農業総合センター）

アブラナ科野菜、ネギ、メロンにおけるトレーサビリティ付与に関する実用化研究を行う。

5 目標とする成果

野菜種苗への DNA マーカー利用が促進され、品種判別・純度検定法が確立される。これにより国内種苗の高品質化、育成者権の保護の技術的基盤の確立が期待される。